

タカ・カモ・冬の小鳥、

# 今年こそ野鳥40種を見つけよう

やったあ！ 39種。あと一歩。

## ガンカモ類

### アイサ類

①ミコアイサ ♀ \*カモ目カモ科アイサ属



主写真=原則として、今回撮影のもの。写りの悪いものは、何しろ遠いので、「証拠写真」としてご容赦。  
未撮影の鳥については、極力、他日の『ふれあいの里』で写したものを使用。(撮影日記載) 該当の里の写真ない場合は、他の写真を使用。(撮影地記載)  
参考写真=資料等より引用。

参考写真 ♂



- 全長；38-44cm。
- 冬鳥…九州以北に越冬のため飛来（少数は北海道の湖沼で繁殖）。
- 湖沼、大きな川、入り江等にすむ。
- 食性=動物食傾向の強い雑食で、主に魚類を食べるが、カエル、昆虫、甲殻類、植物の葉、根、種子なども食べる。
- 繁殖期のオスは全身の羽衣が白い。  
和名ミコはオスの羽衣が巫女の白装束のように見えることに由来。
- メスや「エクリプス」では頭が茶色で、ほおがはっきりと白い。

当観察会としては、初の確認 ✨

エクリプス=カモ類の雄が繁殖期経過後、一時的に雌のような地味な羽色になる状態

## 淡水ガモ類

②マガモ ♀・♂ \*カモ目カモ科



♂

♀

- 全長；50-65cm。
- 冬鳥…北海道から南西諸島まで全国的に渡来。  
北海道と本州中部の山地では少数が繁殖。
- 湖沼、池、河川、海岸に生息。
- 食性=植物食が主の雑食。水草の葉や茎、植物の種子、貝などを食べる。水面を泳ぐのは上手だがもぐれず。
- くちばし…♂=全体が淡い黄色。  
♀=黒くて、周辺は橙赤色。
- エクリプスでも雄はくちばしが黄色っぽい。
- 雌雄とも足は橙色、尾は白。
- 本種を飼育改良したものがアヒル。

大きさ(全長)をイメージするために=比較用

スズメ … 14.5 cm

ハト … 33 cm (キジバト、カワラバト=ドバト)

カラス … 50 cm (ハシボソガラス)



③カルガモ \*カモ目カモ科マガモ属



- 全長；53-63cm。
- 留鳥…全国の水辺で1年中見られる。(北海道では冬に少ない)
- 食性＝植物食傾向の強い雑食で、種子、水生植物、昆虫などを食べる。
- くちばしの先だけ黄色。
- 腰の部分に白い三日月模様。(三列風切羽根の縁が白い) 飛ぶ時、腹は黒く見える。
- 大きさはほぼ一緒のマガモよりも、やや体重が軽く、それが名前の由来になったという説や、万葉集に歌われた「軽ケ池」に由来するという説がある。

④コガモ ♀・♂ \*カモ目カモ科マガモ属



♀



♂

- 全長；34~38cm。ほぼハト大で、カモの間では最小。
- 冬鳥…全国に飛来。秋早くから春遅くまで見られる(一部は北日本で繁殖)。
- 湖沼、池、河川、干潟などに生息。市街地の河川や公園の池などでも観察される。
- 食性＝植物食で、河川や湖沼などの水面から届く範囲の藻や水草などを食べる。夜間に採食することが多い。

⑤ヒドリガモ ♀ \*カモ目カモ科マガモ属



- 全長；♂=約53cm、♀=約43cm。
- 冬鳥…全国に渡来。
- 湖沼、池、河川、河口、海岸、干潟などに生息。
- 食性＝植物食であるが、水生昆虫や軟体動物を食べることもある。潜水して捕食はしない。岸やや中洲に上がって陸上の植物も食べる。
- くちばしは灰色で先が黒。雌は他のカモよりは赤味がある。腹がはっきりと白い。

♂



撮影；岡崎南公園



⑥ハシビロガモ \*ガモ目カモ科マガモ属  
←参考写真↓ ♀



- 全長；♂=約51cm、♀=約43cm。
- 冬鳥…北海道で少数が繁殖する。
- 河川、湖沼、池などに生息。
- 食性＝植物食傾向の強い雑食で、種子、プランクトン、昆虫、軟体動物、魚類などを食べる。
- 長めで、横幅が広いくちばし。  
(嘴=和名の由来)

海ガモ類

⑦スズガモ ♀・♂ \*ガンカモ目ガンカモ科ハジロ属



- 全長；オス=約46cm、メス=約43cm。
- 冬鳥…全国的に多数飛来。
- 主に内湾など波の静かな海に大群で生息する。ただし少数の群れで海や海に近い湖沼等にも分布。  
底が泥地の湾を好み、大群になることが多く、夏も残っているものが少数ある。
- 日本に渡来する海ガモ類では、最も渡来数が多い種とされる。
- 食性＝アサリを始めとする貝類などを食べるが、水草を食べることも希にある。  
主に潜水して採食する。
- 雄はキンクロハジロに似て背面が淡い。雌はくちばしの付け根に白い斑。
- 名前の由来は、飛ぶときの羽音が金属質で鈴の音に似ていることから。

カイツブリ類

⑧カイツブリ \*カイツブリ目カイツブリ科カイツブリ属

当日・証拠写真

魚ゲット！ 撮影：16.12.26



水草池の魚。  
何でしょう？

- 全長；25～29cm。
- 留鳥／漂鳥…本州中部以南では留鳥として周年生息。北日本では冬に暖地に移動。

漂鳥＝日本の中で季節的な移動をする鳥。

- 湖沼や流れの緩い河川にすむ。
- 食性＝主に動物食で、魚類、昆虫、甲殻類、貝類などを食べる。巧みに潜水して獲物を捕食する。  
1回に平均15秒前後（状態により数秒から30秒）潜水。
- 足は体の後部の尻あたりから生えており、歩くには非常にバランスが悪いが、足を櫂のように使って泳ぐ。  
(足には各指に水かきがある)

ウ類

⑨カワウ \*カツオドリ目ウ科ウ属

- 全長；約82cm (80～101cm)。
- 留鳥／漂鳥…本州以南、特に関東、東海、近畿に多い。  
東北では夏鳥で九州以南では冬鳥。
- 内湾、湖沼、河川などに生息。



- 食性＝餌となるのはほとんど魚類で、潜水して捕食する。捕獲する際には時に1分以上、水深10m近くまで潜水することもある。
- 飛び立つときには助走が必要。



## クイナ類

### ⑩オオバン \*ツル目クイナ科オオバン属



- 全長；32～39cm。
- 冬鳥（もしくは留鳥）…夏季に北海道（夏鳥）、本州、九州で繁殖し、冬季になると本州以南で越冬する。
- 湖沼、湿原、水田などに生息する。
- 食性＝植物食傾向の強い雑食で、主に水生植物を食べるが魚類、鳥類の卵や雛、昆虫、軟体動物なども食べる。
- 全身黒く、くちばしと額が白い。

参考写真



## チドリ類

### ⑪ケリ \*チドリ目チドリ科タゲリ属



撮影：  
岡崎市  
中之郷

飛翔時、  
尾よりも  
脚が後方  
に出る。

- 全長；約36cm。
- 留鳥…主に関東以西の水田で繁殖し、積雪のある地域では秋冬に暖地に移動。
- 水田、畑、河原、干潟、草原などに生息。
- 食性は主に動物食で、昆虫類、ミミズ、カエルなどを捕食。

## その他、小水池で見られる鳥

### 淡水ガモ類

トモエガモ  
オシドリ  
ヨシガモ  
オナガガモ



### 海ガモ類

ホシハジロ  
キンクロハジロ



### カイツブリ類

カンムリカイツブリ



## サギ類

### ⑫ダイサギ \*ペリカン目サギ科アオサギ属



- 全長；約89cm。
- 九州から本州に夏鳥として飛来し繁殖するものと、冬鳥として飛来するものがある。（それぞれが観察されるため、渡り鳥であるものの、ほぼ一年中観察される）
- 水田や川、湖沼などで、魚、両生類、爬虫類、昆虫、更には哺乳類や鳥類までも捕食する。

### ⑬アオサギ \*ペリカン目サギ科アオサギ属

ハクセキレイ・セグセキレイの証拠写真



- 全長；88～98cm。
- 本州、四国では周年生息する留鳥。北日本では、秋冬に暖地に移動するものが多い。
- 河川、湖、池沼、湿原、干潟、水田などに生息する。
- 食性＝動物食で、魚類、両生類、鳥類の雛、小型哺乳類、甲殻類、昆虫などを食べる。



## ワシタカ類

### ⑭ ミサゴ \*タカ目ミサゴ科ミサゴ属

撮影：岡崎・矢作川



- 全長；55～63cm。
- 留鳥…全国に分布。  
北日本では夏鳥（冬に暖地に移動）。
- 主に海岸に生息。  
内陸部の湖沼、広い河川、河口等にも生息。
- 食性＝肉食性で主に魚類を食べるが、爬虫類、鳥類、貝類を食べることもある。
- 獲物を見つけると素早く翼を羽ばたかせて空中に静止するホバリング飛行を行った後に急降下し、水面近くで脚を伸ばし両足で獲物（魚）を捕らえる。
- 魚を捕食することから「魚鷹（うおたか）」の異名がある。
- 下面が白く見え、細長い翼に短い尾。

### ⑮ ノスリ \*タカ目タカ科ノスリ属



- 全長；52～57cm。
- 漂鳥…北海道から九州、小笠原諸島に分布・繁殖（繁殖地では留鳥）。北のものは冬には南へ移動しているものもいる。冬になると海外からの渡来もある（冬鳥）。
- 平地から山地の森林に生息。山地の林で繁殖する。
- 食性は＝動物食で。虫類、節足動物、陸棲の貝類、ミミズ、両生類、爬虫類、鳥類、小型哺乳類等を食べる。
- トビより短い丸尾。
- 鷹狩りに使えない為、役に立たない鷹として、奈良時代には「くそとび」と呼ばれていた。（色彩から、「馬糞鷹」と呼んという説も）

### ⑯ オオタカ \*タカ目タカ科ハイタカ属

撮影：岡崎市中之郷



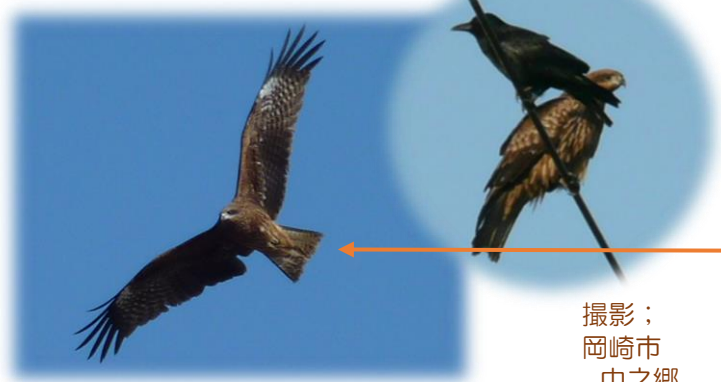
撮影：岡崎・矢作川

← 幼鳥でしょうか？

- 全長；50～56cm。
- 留鳥…一般的には留鳥だが、冬になると海外から渡来してくることも。
- 本州以北の林で繁殖。繁殖期は山地に多いが、秋冬は低地でも全国的に見られる。
- 食性＝中小型の鳥類（ハト・カモ等）や小型哺乳類（ネズミ・ウサギ・オコジョ等）を空中あるいは地上で捕らえる。
- 優れたハンターであることから、厳しい訓練を経た後、鷹狩りに使われた。  
現在、国内のオオタカの捕獲が禁止されているため、海外から輸入したオオタカで伝統技術を承継。

### ⑰ トビ \*タカ目タカ科トビ属

撮影：岡崎・矢作川



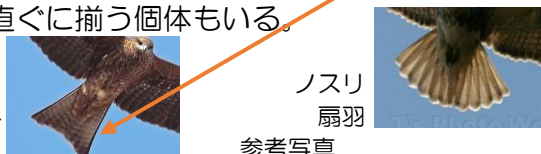
撮影：岡崎市中之郷

- 全長；59～69cm。
- 留鳥。
- 九州以北の水辺から山地まで、もっとも普通に見られるタカ。
- 食性＝生きた動物を襲うことは少なく、魚や死んだ動物などを食べ、ゴミ捨て場にも集まる。
- 地上や樹上にいるときは尾羽の中央部が三角形に切れ込んでいるが、飛んでいるときは尾羽の先端が真っ直ぐに揃う個体もいる。

凹羽はトビのみ

ノスリ扇羽

参考写真

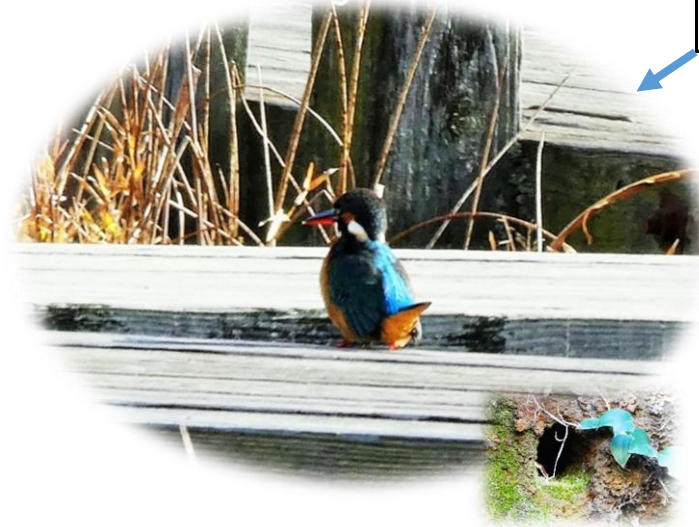




## カワセミ類

### ⑱カワセミ \*ブッポウソウ目カワセミ科カワセミ属

23号線（岡崎バイパス）南の「安藤川支流」で観察中、飛ぶところを確認されましたが、観察会解散後、ネーチャーセンター前にも現れました。



- 全長；17cmほど。
- 留鳥…全国にすんでいる。  
（北日本では秋冬に暖地に移動）
- 海岸や川、湖、池などの水辺に生息し、公園の池など都市部にもあらわれる。
- 食性＝採餌するときは水辺の石や枝の上から水中に飛び込んで、魚類や水生昆虫をくちばしでとらえる。エビやカエルなども捕食する。
- 土の崖（がけ）の斜面に穴を掘って繁殖する。
- 青い背、オレンジ色の腹。  
雄の下くちばしは赤い部分がない。

←カワセミの巣（跡）か？ 里の南で発見！

## キツツキ類

### ⑲アカゲラ \*キツツキ目キツツキ科アカゲラ属 (鳴き声 確認) 撮影；16.12.26



- 全長；20～24cm。
- 留鳥…本州以北の林にすむ。
- 食性＝雑食で、主に昆虫、クモ、多足類を食べるが果実、種子なども食べる。主に樹幹で採食を行う。
- 黒い背に白いしま模様があり、左右の白い大きな斑が目立つ。

### ⑳コゲラ \*キツツキ目キツツキ科アカゲラ属



- 全長；13～15cm。
- 留鳥…北海道から沖縄・西表島までの、ほぼ全国に分布・繁殖。
- 食性＝雑食だが、主に昆虫などの節足動物を捕食し、木の実を食べることもある。
- 日本で一番小さなキツツキ。

## セキレイ類

### ㉑キセキレイ \*スズメ目セキレイ科セキレイ属 撮影；14.1.27



- 全長；20cmほど。
- 留鳥…屋久島以北の川や池沿いの地上にすみ、秋冬には南下するものもいる。
- 海岸、河川、池沼など水辺の他に、農耕地、駐車場、道路、工場内の舗装地など他の鳥が利用しない無機質的な場所にも生息できている。
- 食性は動物食で、日中は水辺を歩きながら水中や岩陰などに棲む昆虫類やクモ類などを捕えて食べる。
- 黄色い腹、澄んだ声。
- ハクセキレイやセグロセキレイなどの他のセキレイ類と同様、いつも尾羽を上下に振っているのが特徴的。

撮影；岡崎市中之郷  
民家の屋根





②② **ハクセキレイ** \*スズメ目セキレイ科セキレイ属  
撮影：9.1.28



参考写真

- 全長；21cmほど。
- 留鳥（漂鳥）…春夏は北日本に、秋冬は積雪のない地域に多い。
- 主に水辺に棲むが、水辺が近くにある場所ならば畑や市街地などでもよく観察される。  
（駐車場大好き??）
- 食性＝雑食で、一旦高いところに留まって採食に適した場所を探し、水辺や畑などに降りて歩きながら水中や岩陰、土中などに潜む昆虫類やクモ、ミミズなどを主に捕えて食べる。
- 雌は雄よりも黒味が乏しい。雄も冬羽の上面は淡くなる。
- 岡崎市、東村山市、水戸市などの「市の鳥」。

②③ **セグロセキレイ** \*スズメ目セキレイ科セキレイ属  
撮影：14.1.13



- 全長；20-22cm。
- 留鳥…北海道から九州まで普通に見られる。
- 主に水辺に住むが、水辺が近くにある場所ならば畑や市街地などでも観察される。
- 食性＝雑食で、採食方法などもハクセキレイに似るが、本種は水辺の環境に依存しており、畑など乾いた場所での採食行動はあまり見られない。
- ジジッと濁った声。
- 日本特産種。（韓国での繁殖例あり）

**ヒヨドリ類**

②④ **ヒヨドリ** \*スズメ目ヒヨドリ科ヒヨドリ属



- 全長；19～20cm。
- 留鳥／漂鳥…秋に南西方向に移動する群れが見られる。（北海道から本州、四国、九州へ）
- 里山や公園などある程度木のある環境に多く生息し、都市部でも見られる。
- 食性＝実や花の蜜を食べる。繁殖期には昆虫類も多く捕食する。非繁殖期は果実（センダンやイギリ、カキ、ヘクソカズラなど）がほとんど。ツバキなどの花の蜜を好む。
- 目の下後方は茶色。

**モズ類**

②⑤ **モズ** \*スズメ目モズ科モズ属



- 全長；19～20cm。
- 留鳥…日本の北海道、本州、四国、九州に分布。北海道や山地では、秋冬に暖地や低地に移動。
- 林の周辺、農耕地、河川敷などのやや開けた環境で繁殖。
- 食性＝動物食で、昆虫 節足動物、甲殻類、両生類、小型爬虫類、小型の鳥類、小型哺乳類などを食べる。
- 「モズのはやにえ（早贖）」…獲物を木の枝等に突き刺したり、木の枝股に挟む行為。



## ツグミ類

### 小型ツグミ類

②⑥ ジョウビタキ \*スズメ目ヒタキ科ジョウビタキ属

撮影：16.12.26

当日  
証拠写真



♀

撮影：15.3.2



当日  
証拠写真

♂

- 全長；13.5～15.5cm。
- 冬鳥…全国に渡来する。（根雪のない地域に飛来）
- 平地から低山の農耕地、住宅地、公園、河原などに生息。やや開けた環境を好み、1羽でいる。
- 食性＝昆虫類やクモ類などを捕食するが、冬にはピラカンサなどの木の実もよく食べ、ヒサカキなど実をつけた木によく止まっている。
- ときどきぴょこんとおじぎをして尾をふるわせる、かわいい冬鳥。
- 名前のジョウは「尉」で銀髪のこと。ヒタキは「火焚」で、火打石をたたく音に似た音を出す（時に「カッ、カッ」と鳴く）ことからジョウビタキの名がついた。
- 翼にある白い斑点をキモノの紋に見たてて、モンツキドリという地方がある。

「西瀬戸内地方にある民話」；昔、スズメとモンツキドリは姉妹でした。母親が重い病気になったとき、スズメはお歯グロを塗っていましたが、すぐやめて駆けつけたので死に目に会うことができました。ところがモンツキドリは、化粧をしたりモンツキを着たりと時間をかけたので、死に目に間に合いませんでした。怒った父親はモンツキドリに「もう、こんりんざいタバモノをやらない」と言いました。だから今でもモンツキドリ＝ジョウビタキは、おじぎをしているのです。いっぽうスズメの口もとが黒いのは、途中で塗るのをやめたお歯グロのあとだと…！

## 大型ツグミ類

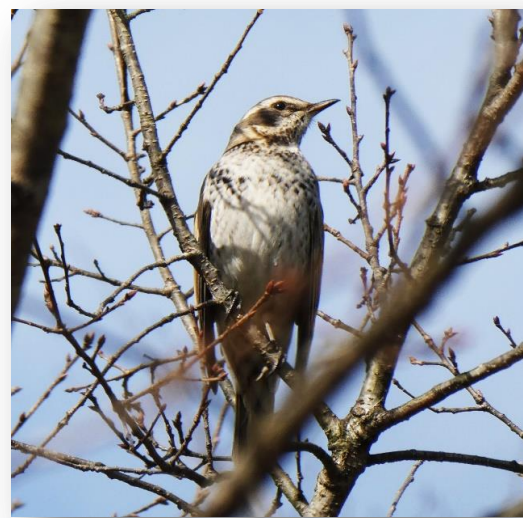
②⑦ シロハラ \*スズメ目ヒタキ科ジョウビタキ属

撮影：14.1.13



- 全長；25cmほど。
- 冬鳥…本州以南の積雪のない低地で主に見られる。西日本に比較的多く飛来。
- 森林の茂みの中にひそむことが多いが、都市部の公園や緑地帯などにも姿を現す
- 食性＝雑食で、ツグミと同様に地面に降りて昆虫やミミズなどの小動物を捕食するが、木の実もよく食べる。やぶのある暗い林の地上で、採食していることが多い

②⑧ ツグミ \*スズメ目ツグミ科ツグミ属



- 全長；24cmほど。
- 冬鳥…日本全国で普通に見られる。
- 秋に林に飛来するが、冬には芝生、農耕地、河川敷などの開けた地上でも見る。
- 食性＝雑食で、昆虫、果実などを食べる。
- ムクドリより小走りに移動しては立ち止まる。
- 冬鳥なので日本ではさえずりをしない。そこで冬には口をつぐんでいるので「ツグミ」と呼ばれるようになったと言われている。



## ウグイス類

### ⑳ウグイス \*スズメ目ウグイス科ウグイス属

撮影：10.2.22 小草池奥の池端の藪



- 全長；オス＝16cm、メス＝14cm。  
スズメとほぼ同じ大きさ。
- 留鳥／漂鳥…ほぼ全国に分布する。寒冷地の個体は冬季に暖地へ移動する。
- 平地から山地の林やその周辺にある藪で繁殖。
- 食性＝雑食だが、夏場は主に小型の昆虫、幼虫クモ類などを捕食し、冬場は植物の種子や木の実なども食べる。
- さえずりは「ホーホケキョ、ホーホケキキョ、ケキョケキョケキョ……」、地鳴きは「チャッチャツ」。ホーは吸う息、ホケキョは吐く息、胸をいっぱいふくらませてさえずる。
- 本州中部あたりでは2月初旬頃からさえずり始め、8月下旬頃までがよく聞かれる時期だが、10月頃まで弱いさえずりが聞かれる。
- うぐいす色と言われて思いうかべるのは「うぐいす餅」などの色彩だが、実際のウグイスの羽色は緑よりも暗緑茶色。

## カラ類

### ㉑シジュウカラ

\*スズメ目シジュウカラ科シジュウカラ属



当日  
証拠写真



撮影：岡崎公園

- 全長；約14cm。
- 留鳥…ほぼ全国に分布。
- 市街地の公園や庭などを含む平地から山地の林、湿原などに生息
- 食性＝雑食で、果実、種子、昆虫やクモなどを食べる。地表でも樹上でも採食を行う。
- 白いほお、胸から腹にネクタイ模様（太い方が雄）。



♂

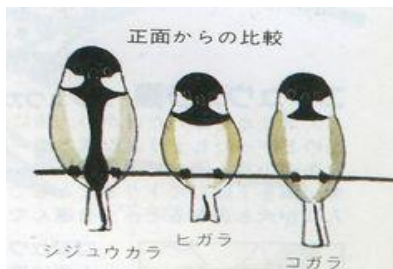
♀

参考写真



コガラ

参考資料



正面からの比較

シジュウカラ

ヒガラ

コガラ

### カラ類の見分け方

シジュウカラ＝ネクタイ。  
ヒガラ＝冠羽、アンバランスに  
大きい頭。  
コガラ＝それ以外…。



参考写真

### ㉒ヤマガラ

\*スズメ目シジュウカラ科シジュウカラ属



- 全長；13～15cm。
- 留鳥…ほぼ全国に分布。
- よく茂った広葉樹林を好む。山地から平地にかけて生息。
- 食性＝雑食で、昆虫、クモ、果実などを食べる。
- 人に最も慣れやすい野鳥で、慣れれば手乗りもする。



観察地の、23号線（岡崎バイパス）南の田園地で、観察中の皆さんの目をひいたハゼノキの紅葉。



## エナガ類

③②エナガ \*スズメ目エナガ科エナガ属  
撮影：11.3.14



- 全長；約14cm。（長い尾羽を含む）
- 留鳥…九州以北の低山の林に生息。
- おもに平地から山地にかけての林に生息するが、木の多い公園や街路樹の上などでもみることができる。
- 食性＝木の枝先などで小さな昆虫類、幼虫、クモを食べ、特にアブラムシを好みホバリングしながら捕食することもある。また、草の種子、木の実なども食べ、樹皮から染み出る樹液を吸うこともある。
- 日本でいちばん小さい鳥はキクイタダキ（体重5グラム前後）だが、その次に小さい（と言える）のがこのエナガで、体重は8グラムほど。
- 白っぽい小さな体に長い尾（全長14 cmに対して尾の長さが7-8 cm）。和名は、柄の長い柄杓（ひしゃく）に例えたことに由来。＝柄長

## メジロ類

③③メジロ \*スズメ目メジロ科メジロ属



- 全長；約12cm。
- 留鳥…全国の平地から山地の林に生息。
- 常緑広葉樹林を好む。市街地の庭や公園にもいる。
- 食性は雑食だが、花の蜜や果汁を好み、育雛期には虫なども捕食する。
- 体の色から「ウグイス」と間違えられることも多い。鶯色（うぐいすいろ）とは灰色がかった緑褐色を言うが、美しい黄緑色を連想する人もいることもその原因。

## ホオジロ類

③④ホオジロ 女 \*スズメ目ホオジロ科ホオジロ属  
安藤川支流の堤防で（観察会当日）



- 全長；16cmほど。
- 留鳥…種子島、屋久島から北海道まで分布。
- 林の周辺、農耕地、河川敷などのやや開けた環境にすむ。
- 食性＝雑食性で、繁殖期には昆虫類、秋から冬には植物の種子を食べる。
- 腹が茶色。チチッまたはチチチッと短く続けて鳴く。さえずり：木のこすえなどの目立つところで、細かい声で早口にチョッピーチリーチョーツクなど。

③⑤アオジ \*スズメ目ホオジロ科ホオジロ属  
撮影：11.3.14



- 全長；14～16.5cm。
- 漂鳥…本州中部以北の山地や、北海道の山地の明るい林や低木林などの環境で繁殖。
- 開けた森林や林縁に生息する。非繁殖期には藪地などにも生息。
- 食性＝植物の種子や昆虫類を食べる。地上で採食する。
- 胸から腹が黄色にまだら模様。
- 用心深い性質で、草むらの中などに身を潜める。



## アトリ類

③⑥カワラヒワ \*スズメ目アトリ科ヒワ属  
撮影；15.2.28



- 全長；約14cm。
- 留鳥…日本国内ではほぼ全域に分布。  
(北部のものは冬場は暖地へ移動する)
- 林、草地、農耕地、河原に普通に生息。近年は、都市部の市街地の公園や川原などでも観察される。
- 食性＝主に植物食で、植物の種子を食べることが多い。人為環境下ではヒマワリなどの種子を特に好む。
- 飛ぶと黄斑が目立つ。

## ハタオリドリ類

③⑦スズメ \*スズメ目スズメ科スズメ属



- 全長：14～15cm。
- 留鳥…北海道から沖縄まで見られる。
- 生息地は、都市、農村、里などの人の居住域付近。  
\*人家付近でのみ見られる＝人間が住み始めた集落にはスズメも居着き、逆に人間が離れ集落が無人になるとスズメも見られなくなる。
- 食性＝雑食性で、イネ科を中心とした植物の種子や虫を食べる。都市部に生息するスズメは何でも食料にする。



早々と…タチツボスミレ



シセントキワガキ 観察



撮影；15.11.28

## カラス類

③⑧ハシボソガラス \*スズメ目アトリ科ヒワ属



- 全長；50cmほど。
- 留鳥…ほぼ全域の平地から低山に分布（九州以北）
- 農耕地や河川敷のような開けた環境を好む。
- 食性＝雑食で、昆虫類、鳥類の卵や雛、小動物、動物の死骸、果実、種子等を食べる。ハシボソガラスよりも比較的植物質を好む傾向にある。ハシボソガラスと違い地面をウォーキング（交互に脚を出して歩く）する時間が長いため地面採食（土食い）もする。

③⑨ハシブトガラス \*スズメ目アトリ科ヒワ属



- 全長；56cmほど。
- 留鳥…小笠原諸島を除き全国で、低地から山地まで幅広く分布。
- 食性＝は雑食で、昆虫や木の実、動物の死骸など、あらゆるものを食べる。高所から地上を見下ろして餌を探し、餌を見つけると下りて行ってとり、高所に戻って食べる。ハシボソガラスよりも肉食性が強い。



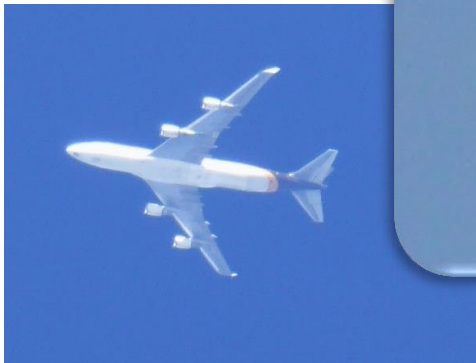
## 「ブト」と「ホソ」の比較

比較項目	ハシブトガラス	ハシボソガラス
体の長さ (平均値)	57cm	50cm
嘴の大きさ (平均値)	大きくて太い。 (長さ6.8cm、幅2.7cm)	小さくて細い。 (長さ5.3cm、幅1.9cm)



頭部	段になっていておでこが出ている様に見える。	段差がなく、なめらかに見える。
鳴声	澄んだ声（カーカー）	濁った声（ガーガー）
鳴く時の姿勢	体を振るわせない。頭を前に突き出す。のどを膨らませる。	体を振るわせる、腹部を膨らませ、頭と尾羽を下げてお辞儀をする格好。
住まい	街の中、公園の森、海岸。	郊外（田園地帯、農耕地、河川など開けた場所）。
営巣の場所	クスなどのより高い常緑広葉樹の樹冠部の茂み。	落葉広葉樹やマツなど明るい樹枝上。巣の位置は開放的でやや低い。
食生活	より肉食傾向が強い。	やや植物食傾向が強い。
エサの食べ方	高く安全な場所に運んでから食べるが多い。	その場で食べるが多い。

## ヒコウキ類 リョカク目



\*科 不明  
(教えてください。m(\_ \_)m)



\*ジャル科



\*スプリングジャパン科

### ◇エゴノキタケ



●エゴノキの枯木に生える。傘表面に環紋と言う模様。日本特産。食不適。

### ◇コフキサルノコシカケ



大きい！



毎年の40種見つける目標は、残念ながらこれまで未達成。今回も届かなかったものの、去年の37種と比べれば、大健闘！あと一步の39種。来年は期待できるぞ～！！

**この時期、『西尾いきものふれあいの里』で、その他に見られる鳥（一部）**

サギ科 … コサギ、ゴイサギ  
ハヤブサ科 … チョウゲンボウ  
キジ科 … キジ  
チドリ科 … イカルチドリ  
シギ科 … イソシギ  
ハト科 … キジバト、（アオバト）  
ヒバリ科 … ヒバリ  
セキレイ科 … ビンズイ、タヒバリ  
ヒタキ科 … ルリヒタキ  
ホオジロ科 … カシラダカ  
ムクドリ科 … ムクドリ



小草池の鳥（ガンカモ科・カイツブリ科）は前掲

「ふれあいの里」でも確認できた『ジョウビタキ』ですが、観察会を終えて自宅に帰ると、庭のハクモクレンの枝上で、我が家にいつもやって来るジョウビタキ♀が出迎えてくれました。かわいいやつです。

おまけ

岡崎市赤渋 16.12.24 13:23

